

狭隘な作業空間での 極小口径管推進工法の施工実績

キーワード
狭隘な作業空間、
既設構造物内、
小口径管推進



赤津 由伊子
AKATSU Yuiko

東京電力(株)
東京工事センター管路G



戸矢 貴幸
TOYA Takayuki

東京電力(株)
東京工事センター管路G



植木 茂男
UEKI Shigeo

(株)関電工
電力本部工事センター

1. はじめに

地中送電用管路の設備形成には開削工法と非開削工法があり、通常は安価である開削工法により建設を実施している。

しかし、地下に既設埋設物が輻輳している箇所や交通の往来が激しい箇所等では、極小口径管推進工法等の非開削工法により設備形成を実施する方が安価となる場合がある。

非開削工法である極小口径管推進工法は、一般的に

は立坑を設けて施工を実施するが、既設構造物を活用して地中送電線用管路網を形成する場合もあり、昨今では電力用ケーブルが収容された既設マンホール内からの極小口径管推進工法の適用事例も散見されてきている。

本稿では、ケーブルが収容された既設マンホール内という狭隘な作業空間において実施した極小口径管推進工法の施工実績について報告する。

2. 工事概要

工事概要を図-1、2および以下に示す。

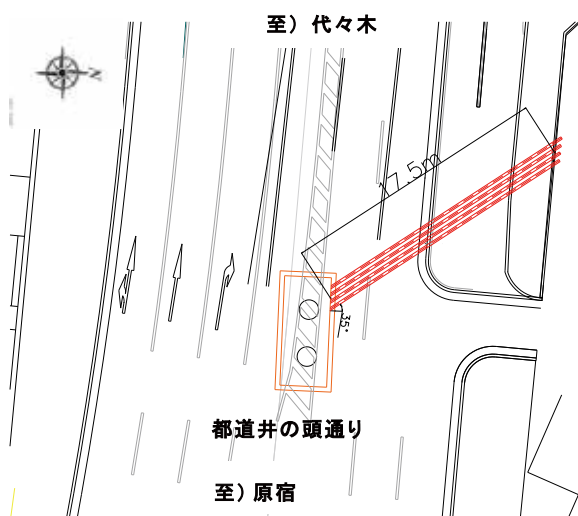


図-1 平面図

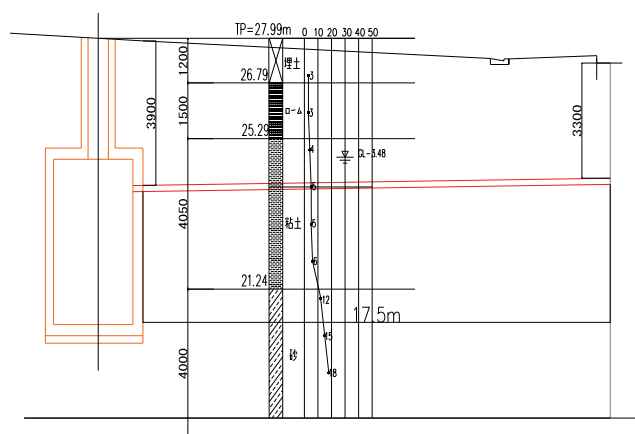


図-2 縦断面図